

B 32 振動によるフレアースカートの形態変化について
日本女大家政 ○千葉桂子 樋口ゆき子 中村邦子
仙台白百合短大 須田博子

目的 フレアースカートの形態は、着用静止時においては、ドレープとして現われ、他のスカートと比較して、特徴的なものであるが、着用時に歩行などの動作をした場合にその形態は、動作に内在する諸方向の振動に影響を受け、複雑に揺れ動き、多様な動的イメージを与える。そこで本研究では、フレアースカートの振動特性に着目して、実験的に、フレアースカートに振動を加えた場合の形態変化について、経時的解析を試み、また振動による裾線形状への影響を検討し、フレアースカートの動的イメージの把握を目的とした。

方法 試料として、綿、ウール、ポリエステルの計3種を選定し、円弧法を用いた裾回り寸法、スカート丈を一定にしたパターンにより、前後中心バイアス方向の8枚はぎフレアースカートを製作した。サイズは、標準的な婦人衣料サイズとした。三次元揺動装置上の人台に着装させ、前後・左右・回転方向の振動を加え、ビデオカメラを用いて、後正面と右側面から撮影を行い、形態変化について画像解析システムを用いて、素材別、振動の種類別に比較検討した。また、振動停止後の裾線形状についても同様に、検討した。

結果 三次元揺動装置によって、一定の振動条件の設定が可能であり、また、画像解析システムによる解析の結果、最も振動に影響され、揺動する裾線上の点の振動変位、振動速度、振動加速度を求めることが可能になり、振動波形が得られた。素材別に見ると、振動変位は、各振動とも、ポリエステル<ウール<綿の順に大きくなることがわかった。また、振動の種類別に見ると、すべてにおいて、前後<左右<回転の順に振幅が大きくなり、裾線形状にも影響が認められ、各フレアースカート固有の振動特性が把握できた。